

# うきたむ

## 第64号

### 2024.12.1

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高島町大字安久津 2117 TEL 0238 - 52 - 2585  
FAX 0238 - 52 - 4665  
URL <http://ukitamu.pupu.jp/>



▲鈴木事務員のゆかいな仲間たち（ボスざる君は恥ずかしがり屋で写真掲載を拒否、ヘビは冬眠中で交渉不可でした）

## 鈴木事務員は今日も行く

県立うきたむ風土記の丘考古資料館事務職員 鈴木昌明

まず、鈴木事務員の仕事は当館隣の歴史公園の見回りから始まる。最初に言っておくが鈴木事務員はへびが嫌いだ。大っ嫌いだ。この公園は、古墳が1つ、竪穴式住居が2つ、池が3つ、そして小川、草原、森林に囲まれている。ここにへびが居ないわけがない。案の定、古墳の入口の上で気持ちよさそうに日向ぼっこ、知らないふりも考えたが仕事熱心な鈴木事務員、果敢に撃退を試みるも敢え無く逃亡を許してしまう。そんな攻防の続いたある日、なにも言わずにお引越しをしてしまった。居なくなるとなぜかさびしい。

でも、鈴木事務員には他にも仲間がいる。コウタロウ5才、秋田犬、ぬいぐるみみたいですごく可愛い。近づくとうーうーと低音の警戒音を鳴らす以外は。なんでも某局の女子アナが頭ナデナデしようとした手をガブっとして病院送りにしたとか、おぬし、顔に似合わずなかなかやるな。

池にはガチヨウが1羽、ガチヨウのエサやりの任務を拝命した。鈴木事務員が行くと大きな甲高い声でぎゃおー、ぎゃおーと鳴いて近づいてくる。これだけ大きな声を出されると周りから注目されてすぐく恥ずかしい。最近では心中察して静かに近寄ってくる愛いやつ。でも、鈴木事務員休んだ次の日は、池から駆け上がったてすごい剣幕で餌をねだる。オヌシ、昨日、飯抜きだったな。あいつ、エサやりサボったな。

乱暴な仲間もいる。それはボスざる君だ。とにかくデカイ。時折、仲間を引き連れて公園に現れる。鈴木事務員は爆竹、花火で応戦するがボスざる君は果敢に威嚇突進してくる。仲間を守る行動と共にここは我々の土地だ。出ていけと、元々この土地は我々の土地だったんだと。言われてみれば（言わないけど）あんたが正しい。

それにしても考古資料館の事務職員に応募した際の仕事内容と実際の仕事内容がかなり違うんだよな。パソコン使ったデスクワークのほがイベント担当職？火起こし、弓矢作りの肉体労働職？聞いてないよ！これって今流行の「●バイト」、個人情報も握られてるし…一つ違っていることは低収入であること（泣）。それでも関係部署に駆け込まないのはこの仕事は鈴木事務員にベストマッチしたから。鈴木事務員はパソコンが苦手だ、デスクワークが苦手だ。

文化の日のイベントデイ、目を輝かせ弓矢作りをする少年、少女、そしてすずき少年がいた。枯葉舞う11月、コウタロウはなつかない。???！餌付けでもしてみようかな！

鈴木事務員は今日も行く…

令和6年度

# 全国風土記の丘協議会総会及び研修会

令和6年11月14・15日

11月14日(木)・15日(金)に、当館を会場に全国風土記の丘協議会総会及び研修会が行われました。全国に15館ある風土記の丘の関連施設の内、8館の方からご参加いただきました。

14日には、総会及び東北芸術工科大学の北野博司教授をお招きし、記念講演をしていただき、その後北野先生を交えて意見交換会を行いました。



▲全風協 総会

北野先生からは「人口減少社会における史跡の保存管理と整備」とのタイトルでご講演いただきました。全国各地における史跡を例に挙げ、整備の現状と課題などについて教えていただきました。また、市民協働による保全活動の事例として、上山市での取り組みもご紹介いただきました。その後の意見交換会では、各施設で抱える問題点や課題、史跡の保存の取り組みなどをお聞きしました。風土記の丘の施設は、広大な敷地を持つ所が多く、全体的に整備が行き届かない現状、また、公営の施設である故に問題が発生した際に即座に対応できない現状など、各施設で様々な課題



▲日向洞窟前にて

があることをお聞きしました。

総会・意見交換会の後、高畠駅前の上のやにて、情報交換会を行いました。皆様より関連なご意見を頂戴しました。

翌15日は、視察研修を行いました。高畠町及び周辺市町の遺跡の視察として、瓜割石切場(高畠町) ↓日向洞窟(高畠町) ↓押出遺跡(高畠町) ↓稲荷森古墳(南陽市) ↓下小松古墳群(川西町) ↓天神森古墳(川西町)の順に巡り、よねおり観光センターにて昼食の

後、お土産を購入していただきました。

風土記の丘協議会の総会・研修会は15年ぶりの当館での開催ということもあり、当時を知る職員が誰もおらず手探りで状態を当日まで準備を進めておりましたが、無事に開催・終了でき安堵している所です。

また、ご参加の皆様には不慣れで至らない所も多々あったかとは思いますが、円滑な進行にご協力いただき、感謝申し上げます。普段での取り組み、特に県外の館での取り組みは聞く機会がほとんどなく、今回の意見交換会や情報交換会では貴重なお話をたくさんお聞きすることができ、大変勉強になりました。遠くは九州の方から遠路はるばるご参加いただき、本当にありがとうございました。

絶賛頒布中!  
「やまがたの遺跡の中の  
カミ・ホトケ」



今年度開催の、第三十二回企画展「やまがたの遺跡の中のカミ・ホトケ」の展示図録です。県内の遺跡から出土した祭祀に関連する遺構・遺物から、人々とカミ・ホトケとの関りについて考えます。

展示遺物を全点収録。詳細は、当館までお問い合わせください。

## 目次

- 第一章 祈りの形
- 第二章 書き残された祈り
- 第三章 祈りの場
- 第四章 祈りの風景

頒布価格 1,500円

今期は「やまがたの遺

跡の中のカミ・ホトケ」

をテーマに三回開講し、

企画展をより深く理解する機会を設けました。以下に内容をご紹介します。

「庄内平野の遺跡からみるカミ・ホトケ」

佐藤庄一氏

山形考古学会顧問

佐藤庄一氏からはI 祭祀

木簡、II 笹塔婆や呪符、

形代などの祭祀遺物、III

寺院跡や仏堂跡と考えら

れる遺跡、遺物、IV 祭祀

遺構と地鎮遺構とのお

話しをいただきました。

特に、調査担当者として

臨まれた堂の前遺跡の発

見から史跡指定にかかわ

つての、そして、現在の

学術的な評価について詳

細にまとめられました。

「古代最上・置賜郡の寺

に関するあれこれ」

（公財）山形県埋蔵文化

財センター

渡辺和行氏

（公財）

山形県埋蔵文化

財センター

渡辺和行氏からは置賜

郡の城養蝦夷の記事や、

町尻遺跡の瓦塔、高安窯

跡の瓦の出土から七世紀

後半段階で置賜に幻の寺

院があったのではとの指

摘がありました。また、

県内での寺院建立は九世

紀代に盛んとなり、寺院

跡の遺跡の寺に関する遺

物も当該期のものが多い

とのことでした。

高瀬山遺跡等の四面廂

の掘立柱建物跡は村落内

寺院の可能性が高く、太

夫小屋1遺跡の布堀後地

業の建物群は伴出遺物か

らも寺院跡であることが

確実とのことでした。

「遺跡の中のカミ・ホト

ケ―八幡一遺跡の出土例

などから―」

水戸部秀樹氏

（公財）山形県埋蔵文化

財センター

水戸部秀樹氏からは川

西町の八幡一遺跡から検

出された九世紀から一七

世紀の遺構と遺物を中心

に、お話しをいただきました。

八幡一遺跡からは

九世紀前半の「仏法為」

と刻書された須恵器底部

や、中世の板碑・五輪塔・

宝篋印塔、室町時代の金

泥付着かわらけなどがあ

り、近隣台地に寺があっ

たことを窺わせ、一三世

紀頃の滑石製の石鍋は鎌

倉幕府の関係者からもた

らされたもので、遺跡の

北にある源氏の氏神とさ

れる八幡神社と関係があ

るかも知れないとのこと

でした。

「遺跡の中のカミ・ホト

ケ―中近世の遺跡を中心

に―」

高桑登氏

（公財）山形県埋蔵文化

財センター

高桑登氏からは氏が調

査を担当した小田島城

跡、米沢城跡、上の寺遺

跡の調査成果を紹介して

いただきました。小田島

城跡では堀・沼から呪

符木簡が出土し、米沢城

跡では堀から墨書かわら

け・脇差が出土するな

ど、宗教的な道具は堀に

廃棄する意識があったこ

とが窺えるとのこと

です。中世末から近世初頭

には小田島城跡で井戸に

転用された石塔があり、

上の寺遺跡と慈恩寺では

石塔が廃棄され、本堂周

辺の整備が行われたこと

が判明しているとのこと

でした。

「カミ・ホトケ」の信仰

と経塚

岩崎義信氏

長井市史編纂専門員

岩崎義信氏からはI

「経塚について」で構造、

始源、立地、教典とそ

の種類、II「経塚の変

遷」では一二世紀に盛期

となる埋経の経塚、十六

世紀に盛期となる納経の

経塚、江戸時代に盛期を

迎える礫石経の経塚につ

いてのお話しに続き、最

後にIII「まとめ」として

それぞれの経塚について

「信仰」と「考古資料」

についてまとめていただ

きました。

「遺跡の中のカミ・ホト

ケ―米沢市の調査事例を

中心に―」

佐藤公保氏

米沢市教育委員会

佐藤公保氏からは米沢

市の古志田東遺跡、大南

遺跡、上浅川遺跡、米沢

城跡に見る信仰に関する

遺構と遺物についてお話

しをいただきました。史

跡古志田東遺跡は平安時

代中期の豪族居宅跡で呪

術的な記号が描かれた墨

書土器が多数出土し、室

町時代の大南遺跡からは

僧形神立像、馬形木製

品、呪符木簡や観音講を

示す木簡が出土、上浅川

遺跡の戦国期の区画溝か

ら男性の木像が出土して

いるとのこと

です。

江戸時代の米沢城跡の

二ノ丸跡の調査区では七

つの寺院跡から仏具など

が多量に出土したという

ことです。

## 置賜史跡めぐり (58)

### 笠松山遺跡

白鷹町十王 ●平安時代



▲笠松山遺跡現地展示

笠松山遺跡は県内で初めて発掘された経塚遺跡です。経塚は、末法思想に基づき、書

写した經典を埋納し、弥勒菩薩が現れる五十六億七千万年後まで保存しようとするもので、平安時代の中頃から見られるようになります。



▲1号塚内部

笠松山遺跡の経塚は一二世紀前半に作られたものと考えられ、帆立貝形の1号塚と

方形と考えられる2号塚があります。1号塚は、周囲一五〇cm四方、深さ一一〇cmの竪穴の床に炭木の粉末を敷いて短刀を置き、中央に経筒を埋納するための深さ六〇cm程の石組みを作っています。この石組み内に木炭を充填して石製外容器を納め、その中に青銅製の経筒が納められていました。

1号塚は中央に円形の穴を掘り、南東隅と北東隅に短刀を二本ずつ置いて、穴の底に平らな礫を並べ、中央に石製外容器を納めてその上に礫を積み重ねています。

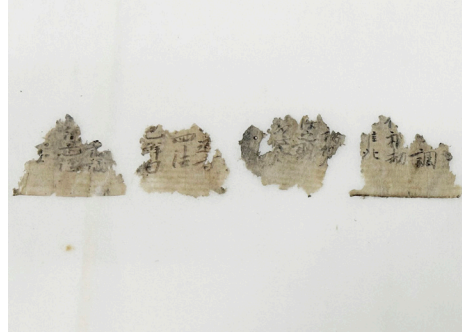
1号塚から出土した経筒には、経筒内部に残る痕跡や残っていた経軸から、もともとは一〇巻の経巻が納められていたことが分かっています。経巻の多くは腐食が進み、溶け落ちてしまいましたが、わずかに残った一部が奈良国立文化財研究所で開巻さ



▲1号塚出土の外容器・経筒

れ、納められた經典が『妙法蓮華經』であったことが分かっており、『妙法蓮華經』八巻と、開経『無量義經』一卷、結経『仏説観普賢菩薩行法經』一卷の計一〇巻が納められていたものと考えられます。

これまで、残された部分については詳細な検討がなされず、「妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五」「妙



▲経巻残欠(一部)

法蓮華經法師品第十」など華經安樂行品第十四」の一部と推定されています。今年度の当館企画展「やまがたの遺跡の中のカミ・ホトケ」の展示に関連して資料を見せて頂き検討したところ、比較的残りの良い部分で、「妙法蓮華經勸持品第十三」と「妙法蓮

### 我が館の展示品 (52)

#### 寝鹿遺跡出土 甗はそう

古墳時代後期 ●高島町 寝鹿遺跡



▲寝鹿遺跡 甗

寝鹿遺跡は高島町にある、古墳時代後期六世紀の遺跡です。多くの土器類などが出土しましたが、その中に「甗」というものがあります。

甗とは、口縁部は外に開いた形をしており、胴部は壺形で丸い穴が一つあいています。竹管などをとりつけて液体を注ぐのに使っていたとされています。古墳時代の副葬品に多く、儀式などで用いられたものです。

甗は須恵器が多いですが、当館展示の甗は土器器です。常設展示されていますので、ぜひご来館ください。